

第1学年国語科学習指導案

日時 平成18年9月29日(金)5校時
児童 男子4名 女子3名 計7名
指導者 名古屋 睦子

1 育てたい能力

体操の時間や雲の上の様子などについて、想像を広げながら読む。(読 ウ)

雲と話したいことを考えて書く。(書 ア)

主語と述語との関係に注意して読むことができる。(言 エ)

2 単元名 こえに だして よもう

教材名 「くじらぐも」 中川 李枝子 作 柿本 幸造 絵

3 教材について

(1) 児童について

児童はこれまで、「はなのみち」「大きなかぶ」「おむすびころりん」の3つの物語教材を学習してきている。「大きなかぶ」では、人物や動物の会話を想像して自分のセリフにつなげたり、様子を想像して動作化したり音読したりする活動を楽しんでいた。少しずつ想像を広げられるようになってきてはいるが、想像したことを自分の言葉で表現するのは、まだ難しい子が多い。

読みの視点について

読みの視点を設定して学習したのは、「大きなかぶ」が初めてである。「まごをよんできてどのようにひっぱたのだろう」という課題から、読みの視点を「ひっぱているようす」とし、「ひっぱているようす」が分かるところを見つけ、その言葉に着目して読み深めるといような学習をしてきた。このような学習を通して、児童は、「読みの視点」という言葉を知り、「読みの視点」とは「課題の内容を詳しく考えるために大事なところ」として捉えることができるようになってきている。しかし、このような学習経験はまだ少なく、視点設定も教師主導でおこなっており、「読みの視点」とそれを手がかりにした「学び方」を十分に理解しているとは言えない。

一人学びについて

「読みの視点」をもとに見つけた着目すべき言葉や文にサイドラインを引いたり、その文を視写をしたりする活動を教師とともにしてきている。その中で、会話文や行動を表す言葉や着目したい言葉を自分で見つけることができる子どももでてきている。しかし、平仮名の読みや表記のしかたが十分に身に付いていないため、何度も何度も読み重ねなければ、内容を読み取ることが困難だったり、視写に時間がかかったりする子もいる。登場人物の気持ちになって吹き出しに書く活動は、学習のまとめで取り扱っているが、一人学びの段階ではまだ、経験していない。

(2) 教材について

学習指導要領における第1学年及び第2学年の「読むこと」の目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などを気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」である。本単元では、「C 読むこと」の指導事項「ウ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと」を重点目標とする。

本教材は、くじらぐもと子どもたちとの楽しい交流を通して、大空を泳ぎ回りたいという願いがかなえられていくおもしろさが描かれている。この物語は、くじらぐもと出会う子どもたち、くじらぐもと呼び掛け合う子どもたち、くじらぐもと飛び乗ろうとする子どもたち、くじらぐもと空を旅する子どもたち、くじらぐもと別れる子どもたちの5つの場面から成り立っている。冒頭の2文「四時間目のことです。」「一ねん二くものこどもたちが…」により場面が明確に設定され、子どもたちは、自分たちを物語と重ね合わせて読み進めることができるようになってきている。四時間目の短い間に経験した長い旅と、その間における様々な楽しい出来事が、地上から空、空から地上にもどるといふダイナミックな構成の中で鮮やかに描かれている。

文章は全体的に簡潔で会話文が多く、全体として歯切れのよい文章となっているので、楽しく音読することができる。また、「みんなが…すると、くじらぐも…しました。」というような対比表現の繰り返しは登場人物の動きを豊かに想像させる効果がある。さらに、生き生きとした子どもたちの表情が描かれている挿絵も想像を広げる手がかりになると思われる。これらのことから、本教材は、場面の様子などについて想像を広げながら読むのにふさわしい教材であると言える。

(3) 指導について

《本校の研究に関わって》

読みの視点について

それぞれの場面での「読みの視点」としては、くじらぐもと子どもたちとの会話文と行動があげられる。本教材は、会話と行動が簡潔な文章で表現されており、1年生の児童にも、捉えやすいと思われる。言語事項である主語・述語「～が～する。」「～は～する。」を手がかりに行動と会話文に注目させていきたい。1年生段階として、教師といっしょに「読みの視点」を決めていくが、その視点を手がかりにすることで、課題を追求していくことがで

きるということを実感させていきたい。そして、前時までの視点が本時の視点として使えるかどうかを検討しながら、着目すべき言葉に気づかせていくような学習を繰り返していくことで、既習をもとに自分で読みの視点を考えていけるような力をつけていきたい。

一人学びについて

本単元での学習の積み重ねを通して、サイドライン 抜き書き（視写）という一人学びの方法が分かるようにするとともに、一人一人が自分で取り組むことができるようにしていきたい。読みの視点を手がかりに着目すべき会話や行動を表す文を、自分で見つけてサイドラインを引く活動をさせ、その上で視写をするようにしていきたい。また、くじらぐもと子どもたちが空を旅する場面では、吹き出しに子どもたちの気持ちを書く活動を取り入れ、それを発表し合い、さらに自分の考えを深めたり、想像を膨らませたりできるようにしていきたい。

4 学習指導目標と評価規準

	学 習 指 導 目 標	評 価 規 準
関心・語への意欲・態度	自分なりに場面の様子を想像したり、声に出したりしながら、楽しんで読もうとする。	・自分なりに場面の様子を想像したり、声に出したりしながら、楽しんで読もうとしている。
読む能力	子どもたちと「くものくじら」の様子を想像したり、声に出したりして読むことができる。（読ウ）	・子どもたちと「くものくじら」の様子を想像して動作化したり、気持ちを考えて読んだりしている。
書く能力	雲と話したいことを考えて書くことができる。（書ア）	・「くじらぐも」に話したいことや自分が見つけた好きな雲と話したいことを吹き出しに書いたり、絵にかいたりしている。
知識・言語について理解・技能	主語・述語のつながり確かめながら読むことができる。（言工） かぎ（「」）の役割がわかる。（言ウ） 助詞「も」がどのように使われているかが分かる。	・主語・述語のつながり確かめながら読んでいる。 ・かぎ（「」）の役割が分かっている。 ・助詞「も」がどのように使われているか分かっている。

5 指導計画・評価計画(別紙)

6 本時の指導

(1) 本時の目標

「くじらぐも」に飛び乗ろうとする子どもたちの様子とそれを応援する「くじらぐも」の様子を読み取り、「くじらぐも」乗れてうれしいみんなの気持ちを想像する。

(2) 具体的評価規準と児童への支援

	A , 十分満足できると判断できる状況例	B , 概ね満足できると判断できる状況	B に至らないと判断した児童への支援
読むこと	・「くじらぐも」の飛び乗ろうとする子どもたちの様子と応援する「くじらぐも」の様子や「くじらぐも」に飛び乗れてうれしい子どもたちの気持ちを豊かに想像し、音読や吹き出しに表している。	・「くじらぐも」の飛び乗ろうとする子どもたちの様子と応援する「くじらぐも」の様子を読み取り、「くじらぐも」に乗れてうれしい子どもたちの気持ちを想像して吹き出しに表している。	・音読や動作化の工夫を通してようすを考えさせる。 ・板書をもとに学習したことを振り返らせて、やっと飛び乗れたうれしさに気づかせる。

(3) 本時の指導について
読みの視点と大事な言葉

読みの視点	みんながしたこと ～は、～が、～しました。	はなしたこと かぎ「 」
大事な言葉	手をつないで、まるいわになると、「天までとどけ、一、二、三。」とジャンプしました。 「天までとどけ、一、二、三。」	

- 一人学び
- ・くものくじらに飛び乗るために、みんながしたことが分かるところを見つけてサイドラインを引く。みんなが話したこと「天までとどけ、一、二、三。」にサイドラインを引く。
 - ・「手をつないで」「まるいわになると」「ジャンプしました。」の部分と「天までとどけ、一、二、三。」をワークシートに教師と共に視写する。

(4) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点(・)及び評価()
つかむ 5分	1 前時の学習内容を想起をする ・くじらぐもにさそわれて、一緒に遊びたくなり、くじらぐもに飛び乗ろうとはりきった。 2 本時の学習課題をつかむ くものくじらにとびのろうとするみんなのようすをくわしくよもう。	・くじらぐもに飛び乗ろうと張り切ったことを想起させることで、本時の場面へとつなげる。(壁掲示による)
ふかめる 37分	3 学習の見通しをもつ ・読みの視点を決める。 「みんながしたこと、はなしたこと」 ～は ～が ～しました。 かぎ「 」 4 学習場面を読む (1) 学習場面を音読する。 (2) 一人学びをする ・みんながしたことを見つけてサイドラインを引く。 「-----」 「みんなは、手をつないで、まるいわになると、「天までとどけ、一、二、三。」とジャンプしました。 「-----」 ・ワークシートに視写する。 (3) 学び合いをする。 ・ジャンプしたみんなの様子と応援するくじらぐもの様子を読み取る。 (1回目のジャンプ) (2回目のジャンプ) (3回目のジャンプ)	・課題から「ようす」を読み取るということに着目させ、既習をもとに「したこと」「はなしたこと」を導けるようにする。その上で主語に着目させ、「みんなが」「みんなは」を手がかりにしていけばよいことに気づかせる。 ・みんながしたことと会話を見つけながら読むようにさせる。(全員で) 言 ～は、しました。かぎ「 」に着目して、サイドラインを引くことができたか。(観察) ・「みんなは、飛び乗るためになにをしたのか。」と問いかけて見つけさせるようにする。 ・教師とともにワークシートに視写をする。(「手をつないで」「まるいわ」「天までとどけ、一、二、三。」「ジャンプ」の部分) ・「手をつなぐ」「まるいわになる」「一、二、三」のかけ声から、みんなで力を一つにして飛び乗ろうとしていることをつかませたい。 ・声の強弱に変化をつけながら、音読を通して子どもたちの頑張りやくじらの応援の高まりを感じ取らせたい。 ・「でも」「やっ」とから残念な気持ちを読み取らせる。 読 「くじらぐも」の飛び乗ろうとする子どもたちの様子と応援する「くじらぐも」の様子を具体的にとらえることができたか (発言、音読)

	<p>・風に吹き飛ばされて、くものくじらに乗るみんなの様子を読み取る。</p> <p>5 本時のまとめをする (1) くものくじらに飛び乗ることができたみんなの気持ちを考え、吹き出しにまとめる。</p> <p>(2) まとめを音読をする。</p>	<p>・みんなのがんばりに風も応援してくれ、雲のくじらに飛び乗ることができたことを読み取らせたい。</p> <p>読 風に吹き飛ばされ、くじら雲に飛び乗ることができたみんなの気持ちになって、吹き出しに思いをまとめることができたか。 (ワークシート) ・何人かに発表させ、みんなで力を合わせてくじらぐもに乗ることができたみんなのうれしい気持ちを確認する。</p>
<p>ひろげる 3分</p>	<p>6 本時の学び方についてまとめ 次時の学習について確認する (1) 学び方の確認をする。 (2) 次時の予告をする。 (3) 自己評価をする。 (一人学び、学び合い、まとめ)</p>	<p>・今日の視点に沿って詳しく学習したことで「くじらぐもとびのろうとするようす」を詳しく考えることができたことをおさえる。</p>

(5) 板書計画

くじらぐも

みんなは、手をつないで、まるいわになる。気持ちこそさるえて

「天までとどけ、一、二、三。」とジャンプ。しました。

「天までとどけ、一、二、三。」

「天までとどけ、一、二、三。」

「くじらぐもおうえんしてくれている」

みんなのちからをひとつに

かだい

くものくじらぐもとびのろうとするみんなのようすをくわしくよまろう。

してん

みんながしたこと、はなしたこと、は、が、しました。」

ながわりえこ

やったあ。やっとくじらぐもにのれたよ。みんなのちからをひとつにしたからだ。くじらぐもさん、おうえんしてくれて、ありがとう。

挿絵

まとめ

そのとき

がんばれ

もっとたかく。もっとたかく。

くじらぐもおうえんしてくれている